

1		<p style="text-align: center;">教員免許状更新講習 ～「学級づくりに活かす体験活動」～</p>				
2	新規・継続	継続			6年目	
3	趣 旨	<p>児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な知識や技術を身につけるとともに、体験活動の位置づけについて理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を習得することにより、教育内容の充実を図る。</p>				
4	期日・期間	回数	開始日	～	終了日	期間
		1回	9月5日(土)	～	9月6日(日)	1泊2日
5	実施場所	国立信州高遠青少年自然の家				
6	募集人数	20人				
7	共催・協力・後援	独立行政法人国立青少年教育振興機構本部				
8	参加者人数	29人				
9	参加者類型	小学校教諭(19人), 中学校教諭(5人), その他(5人)				
10	参加者地域	長野県(25人), 愛知県(4人)				
11	参加者分析	<p>先着20名の定員のところ、募集開始1週間で定員に達したため、30名までを参加者として決定した。参加申込み者の多くは、募集チラシおよび長野県教育委員会による講習一覧により当施設での開講を知り、講習内容や受講日数および期日等を総合的に踏まえて受講を決定している。</p>				
12	アンケート満足度	満足	やや満足	やや不満	不満	
		100%	0%	0%	0%	
13	アンケートの主な記述	<p>・“体験活動”の大切さを指導要領と照らし合わせ、改めて感じる事ができました。・北見先生の引きつける進行、雰囲気に取り込まれてしまった。具体的に自分の身体をつかっての演習と、その演習の具体的な組み立て方の意図を説明して下さい、大変勉強になりました。子どもにどう考えさせるか、よい体験をさせていただきありがとうございました。・体験活動の大切さを実感でき、自信につながりました。・自分の指導に「いかにして実感を伴う体験活動を取り入れるか」ということを改めて考える機会をいただき、大変感謝しています。・KYTはとても参考になりました。子供達に言葉だけで伝えるのではなく、考えさせることが大切だと思いました。</p>				
14	成 果	<p>・体験活動に関する講義と実習を織り交ぜた講習内容および、教員免許状更新に必要な30時間のうち、選択科目の全18時間を1泊2日で集中的に受講することができるプログラムに、参加者の高い満足度を得ることができた。 ・参加者全員が履修認定の基準に達しており、事業の趣旨が十分達成できたと考えられる。</p>				
15	今後の課題	<p>・今年度は開催期日および講習日程を大幅に変更した結果、受講申し込み者が増加した。次年度は定員を30名まで増やして実施したい。 ・講座内容については参加者の満足度も高く内容も充実しているので、今回の方法を続けていきたい。</p>				
16	担当者メモ	<p>・グループワークは、受講者の理解を深める上での重要な手段であるため、逐次取り入れたい。 ・雨天時の代替プログラムをより詳細に計画しておくことが必要である。 ・持ち物については、事前の案内で詳細に明記しておくことが必要。</p>				

プログラム展開	
日程・時間	プログラム
1日目	
8:20~8:50	受付・開講式
9:00~10:30	講義「教育の現状と課題」
10:45~12:45	実習「学級で活かせる『体験活動を使った人間関係作りⅠ』」
	昼食
13:30~15:30	講義「学級で活かせる『体験活動を使った人間関係作りⅡ』」
15:40~18:40	実習「学級作りに活かす体験活動『野外炊飯』」
18:50~20:50	講義・実習「体験活動『キャンプファイヤー』の指導法」
20:50~21:30	入浴
2日目	
7:20~8:00	朝食
8:30~10:30	講義「体験活動の教育的意義」
10:40~14:30	講義・実習「学級作りに活かす自然体験活動『オリエンテリング』」
14:40~15:40	講義「野外活動における安全管理」
15:50~17:20	履修認定試験
17:20~17:30	閉講式

17



講義「教育の現状と課題」



実習「学級で活かせる「体験活動を使った人間関係作り」」での一幕



北見講師から薪割りりと野外炊飯の指導のコツを学び、その後班毎に野外炊飯実習を行いました。



キャンプファイヤーについての講義の後、実践的に学びました。



「体験活動の教育的意義」の講義の様子。



グループに分かれてオリエンテリングを体験。雨の中でしたが、各班とも協力しながら、楽しく実施。



野外活動における安全管理についてのワークショップ

(事業担当: 久根 敏)